

福島・荒田目条里遺跡

- 1 所在地 福島県いわき市平菅波字礼堂
- 2 調査期間 一九九三年(平5) 四月～七月
- 3 発掘機関 (財)いわき市教育文化事業団
- 4 調査担当者 吉田生哉・矢島敬之
- 5 遺跡の種類 河川跡・祭祀跡
- 6 遺跡の年代 五世紀中葉～一七世紀初頭
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



荒田目条里遺跡は、平市街地の東方約4km、夏井川下流の右岸に位置する。太平洋の海岸線より西へ約3kmのところにあり、陸奥国磐城郡磐城郷に属する地域である。磐城郡衙に比定される根岸遺跡は、荒田目条里遺跡の南東方向約一・五kmの所に位置する。また、北西方向約三〇〇mの位置には、延喜式内社の大國魂神社が所在し、「大同元」銘の付札木簡と緑釉陶器が

多量に出土した小茶円遺跡(本誌第一四・一五号)は、本遺跡の北側に隣接する。今回の調査地点は、常磐バイパス施設工事に伴って発掘調査が行なわれ、付札木簡や多量の木製品・土製品の祭祀遺物を検出した古代河川跡(本誌第二三号)の西側隣接地帯であり、河川跡の上流部にあたると。この地域には、海退過程に形成された浜堤が数列確認されており、現在の海岸線が形成されたのは、今から約一八〇年前とされている。遺跡は第一浜堤(最内陸部)の東側裾部に立地し、低湿地との境に位置する。現況は、畑地と水田で、標高は四・〇m前後を測る。

今回の調査は、工場造成に伴う発掘調査である。調査面積は、東西約六〇m、南北約三〇mにわたる一八〇〇㎡である。

調査の結果、古墳時代前期の竪穴住居跡一棟、古代河川を含む溝跡八条、古代～近世の土坑等一八基が検出されている。

遺物の出土量は、整理用コンテナ約二〇〇箱である。出土遺物の九九%は、五世紀中葉から一〇世紀後葉に比定される河川跡からの出土である。この河川跡は、調査範囲の北側部にほぼ東西に走るかたちで確認された。幅は、北側の岸が調査範囲内では確認されていないが、一〇m以上にわたる可能性がある。深さは、確認面より二・五m～一・〇mである。遺物の内訳は、墨書土器一八〇点を含む土師器・須恵器が大半を占め、このほか剣形・鏡形の滑石製模造品・碧玉製管玉、手捏土器・土玉・土馬・舟形・異形の土製品、紡

鉦車・手斧・鉈・刀子・鎌・やすり・馬具などの金属製品、木簡・
 絵馬、人形・馬形・刀形・弓形・矢形・舟形、陰物・陽物、椀・
 皿・蓋・鉢・折敷・曲物・杵・砧・鋏・箸・刀子柄・手斧柄・下・
 駄・櫛などの木製品、馬骨・ヒョウタン・クルミ・モモ・ウメ・シ・
 ウビ・ヒシなどの自然遺体である。

遺跡の性格を示す遺物には、木簡や絵馬を含む多量の木製品のほかに、人面墨書土器や墨書土器・刻書土器がある。人面墨書土器は口径一四・三cm、底径八・〇cm、高さ八・三cmの手捏による鉢で、体部に髭面の顔と墨書が見られる。墨書土器や刻書土器の中で判読できるものに「磐城□／磐城郷／丈部手子磨／「召代」」（人面墨書土器）「多臣永野磨身代」「正八」「赤井」「田島」「山寺」「柏井」「大舍」「子成」「子」「東」「中」「田」などがある。

8 木簡の釈文・内容

- (1) 「郡符、里刀自、手古丸、黒成、宮沢、安継家、貞馬、天地、子福積、奥成、得内、宮公、吉惟、勝法、圓隱、百濟部於用丸、真人丸、奥丸、福丸、蘓日丸、勝野、勝宗、貞繼、淨人部於日丸、淨野、舍人丸、佐里丸、淨繼、子淨繼、丸子部福繼」「不」足小家庭、壬部福成女、於保五百繼、子槐本家、太青女、真名足「不」子於足「合卅四人」
- 右田人為以今月三日上、面職田令殖可□發如件

大領於保臣
奉宣別為如任件□〔宣力〕
以五月一日

592×45×6 01.1

- [illegible]

念卅四人

奉 聖訓 萬民 仰之

五月一日

(2) 表

女和旱四斗

溪板橋浦公廨米陸升
石料米陸升如付好近板

卜
 坂
 仁孝三十日一
 三三三
 三三三

仁孝三子同日一白字張人三
大三元

- (6) 置替馬
赤毛牝馬 歳四 六
真斗 立
(148)×35×3 081
- (7) 五疋令肋
(93)×15×6 019
- (8) 立申
(266)×40×5 019
- (9) 丈部得足 丈部庭足 丈部子
部虫万呂 丈部
(164)×35×3 019
- (10) 千手一
陀フ尼升遍 浄土阿弥
大仏頂四返 千手懺海是過
貞 俗名丈部 吉力
総力百力 経
(125)×42×2 081
- (11) 道正税
(157)×21×4 059
- (12) 継友力 五斗
203×17×5 033
- (13) 最力子力 七
(155)×27×3 065
- (14) 千万九斗
182×22×4 033
- (15) 高木一斛
(96)×16×3 039
- (16) 日理古僧子 二力
五月十
(62)×15×5 019
- (17) 白稻五斗
(196)×23×3 051
- (18) 女和早四斗
197×24×4 033
- (19) 鬼
(87)×25×3 039
- 五月十七日

材質はカヤである。(28)の一字目は○印の中に記号を書いたものであろうか。

このほか、文書木簡が(4)から(9)の六点、貢進物付札が(11)から(17)・(19)から(22)までの一一点、写経と思われる(23)や定規(24)・習書(25)などが三点、内容不明八点などがある。いずれの木簡も遺跡の隆盛期である九世紀半ばから一〇世紀代の資料と考えられる。

なお、釈読や内容等については、国立歴史民俗博物館の平川南氏のご教示を得た。

9 関係文献

(財)いわき市教育文化事業団『荒田目条里遺跡 木簡は語る』(一九九五年)

(吉田生哉)

福島・矢玉遺跡

- 1 所在地 福島県会津若松市高野町大字界沢字村西
- 2 調査期間 一九九四年(平6)六月～十二月
- 3 発掘機関 会津若松市教育委員会
- 4 調査担当者 萩生田和郎・石本哲也
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 奈良・平安時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(喜多方)

矢玉遺跡は、福島県の西部、会津盆地の中心部からやや東寄りの平坦部、会津若松市の市街地から北西約六kmに位置している。会津盆地の郡衙の最有力候補地とされる、河東町の郡山遺跡から南西に約二・五kmの位置にあり、遺跡の西を湯川が流れている。調査は、県営圃場整備事業に伴い、一九九二年度から一九九四年度の三カ年にわたり実施した。